

夢窓幼稚園通信第38号

2021年 8月 30日

素敵を絵本にまた出会いました。長谷川義史さんが絵を描いている『みどりのほし』というタイトルの本です。

もうひとりの作者の林木林さんが、こんな紹介をしています。

やさいやくだものたちは、頭の上にちよこんとみどりのほしをつけていますね。

なんだかみどりのほしでうまれたしるしみたいにも見えます。

地球には小さなみどりのほしたちがたくさんかがやいて、

そのかがやきが地球のみどりをかがやかせている。

なんて素晴らしいことでしょう。

お星さまが空だけでなく、小さな姿で生活のあちらこちらで輝いているというのですからうれしくなります。

私は空を見上げるのが大好きで、夕暮過ぎて星を見つけてじっと眺めていると秋の空の中に自分が落ちていきそうです。しまいに自分が天幕の上になり、地上の自分を静かに眺め返しているおな気になります。

昼間に自分の見方で物事を受けとめ、自分の価値観でそのものを判断し、自分の都合で行動し、世界をも自分をも小さなところに閉じこめてしまった「今日」を解き放つことができるように思える瞬間です。

厳しい状況、先の見通せない山盛りの心配、他者理解と自己受容に向けての七転八倒の日々の中で、空の上の星々に加えて、小さな地上のほしたちに優しく深呼吸できると思えるなんて素敵です！

絵本の後半は、自然の中で見つけられるみどりのほしだけでなく、「くさのうえに だいのじになった ぼくも ほしなんだ」と気がつき

ます。

そしてさらに

「ともだちがきて ... ひとり また ひとり ほしがふえていく」

「ぼくたち みんな ほしの こども」 「てをつないで せいざき つくっている」

私たち 一人ひとりが ひとつひとつの星で、人と人が星座を作っている... と感じられたら、世界も誰をも自分ももっと輝いて見えることでしょう！

朝・晩 風がずいぶん涼しくなってきました。野原でも山でも街路樹の下でもしきりに虫が鳴いています。

うれしい秋をみんなでもっと過ごしていきたいと思います。

園長 弁光 泰雄